

秋田県心身障害者コロニーの現状と課題

1 現状

- 秋田県心身障害者コロニーは、知的障害者の入所・介護及び自立生活に必要な訓練等を行うため、昭和46年5月に秋田県が開設した。平成18年4月から平成23年3月までは社会福祉法人秋田県社会福祉事業団による指定管理、平成23年4月以降は、同事業団への施設の無償貸与を行い、現在は同事業団が運営主体となり施設の管理運営を行っている。
- 建物の延べ面積は30,227㎡であり、居住棟が7棟（1人部屋48室、2人部屋226部屋）あるほか、管理棟、診療所、給食センターなどがある。
- 事業内容は、指定障害者支援施設として、施設入所340人、生活介護350人、就労支援60人のほか、短期入所として5人の定員による指定障害福祉サービスを提供している。このほか、秋田県社会福祉事業団の指定障害福祉サービス事業として、由利本荘市内に2つのグループホーム（共同生活住居計19か所、定員計97人）を展開している。
- 令和6年4月1日現在、入所利用者は298人（男性159人、女性139人）で、平均年齢は63.67歳であり、65歳以上の人全体が全体の約5割を占めている。また、障害支援区分（1～6）の平均は5.3となっていて、入所利用者の高齢化が恒常化するとともに、障害の重度化が進んでいる。
- 入所利用者の高齢化に伴い、喀痰吸引や導尿等の医療的ケアを必要とする障害者の割合についても増加傾向にある。また、強度行動障害を有する障害者も120人いて、地域生活への移行が困難な入所利用者も増えている。

2 課題

- 現在使用している主な建物は、平成4年から平成11年にかけて全面改築しているが、いずれも築25年以上が経過していて施設や設備の老朽化が進み、空調・電気や配管設備、非常用発電設備のほか、外壁の改修工事など、今後も相当程度の大規模修繕を行っていく必要がある。
- 入所利用者は、平成16年から令和5年までの20年間で約200人減少し、現在も定員を下回った状況が続いているため、開設当初の大規模施設を維持する上で多額のランニングコストが生じている。
- さらに、コロニーには上水道が通っておらず、近くを流れる西目川と二重沼から取水し生活用水とするため浄水場が整備されているが、設備の老朽化が進むとともに、ランニングコストの掛かり増し要因となっている。

- 市街地から遠い中山間地域に立地しているため、交通インフラや冬季の除雪、緊急・災害時対応などに管理が必要であり、入所利用者の地域医療の利便性・地域活動への参加に支障があるほか、施設職員の確保が難しい状況が続いている。